

# DAYS JAPAN新編集長募集「次世代DAYS」コンテスト

## いよいよ締め切り迫る!

**締め切り**

**2013年11月1日**

**提出書類**

「次世代DAYS」見本誌1冊、  
自分の考える新しいDAYSを丸々1冊作ってください。  
版型、ページ数、その他全て規定なし。ロゴを変えても構いません。  
それぞれの企画にはタイトル、リードをつけ、フォトジャーナリスト・執筆者の候補には、なぜその人を選ぶのか理由を明記してください。  
制作に使用するソフトは問いません。  
写真をコピーし、紙に貼り付けた形でも可です。

要履歴書、経歴書

**応募資格**

年齢、性別、国籍問わず。(チームでの応募も可)

**賞金**

**50万円**

**応募宛先**

〒156-0043 東京都世田谷区松原1-37-19 武内ビル402  
DAYS JAPAN編集長募集「次世代DAYS」コンテスト受付係まで  
TEL 03-3322-0233  
FAX 03-3322-0353  
kikaku@daysjapan.net

### 次回相談会のお知らせ

**日時**

9月21日(土)午後2時～4時

**内容**

コンテストに関する説明(1時間)、質疑応答(30分)、  
広河現編集長個別相談(各自10分程度)。

**申込み**

kikaku@daysjapan.netまでお名前、現在の職業、志望動機  
を連絡ください。

申込者へは追って開催場所をお知らせします。

## 第一回応募相談会報告

応募締め切りまで2か月となった8月29日、東京都世田谷区のDAYS JAPAN本社で、新編集長応募のための相談会が行われ、現役大学生から、第一線で活躍するジャーナリストまで編集長の座を志す23人が参加。広河隆一現編集長らへの質問も飛び交い、応募に対する熱意溢れる相談会となりました。



DAYS JAPAN(以下DAYS)の編集長の仕事は、単に雑誌を編集し発行するだけではありません。DAYSの社長として会社を経営し、収支を立て、イベントを行い、DAYSの定款にもある救援活動を行うなど仕事内容は多岐に渡り、現在会社の一切の判断は編集長のもとに行われています。

そのため、今回の相談会ではまず、DAYSの経理、営業、イベント担当者から、担当業務についての現状報告を行いました。

経理担当者からははじめに、DAYSの年間売上高の発表があり、続いて雑誌制作費、人件費、広告費、イベント開催費など支出の内訳を紹介。雑誌単価から総利益まで、本来社外秘となる情報も全てお話ししました。

営業担当者は、雑誌の発行部数(毎月1万7000部～2万部)のうち、定期購読者の方々への発送、書店流通、物販や注文販売用の部数などDAYSの流通について、購読者の分析を加えながら報告があり、創刊当初からの定期購読者は、昨年度は90パーセント近くが年間購読の更新をされるという事実、参加者からは驚きの声が上がりました。次世代

DAYSでは、この定期購読者の方々には納得いただける誌面を作ることがクリアすべき大きな条件となります。

イベント担当者からは、DAYSがこの1年間に開催した写真展や講演会などについて報告され、「DAYS国際フォトジャーナリズム大賞」については、多くのフォトジャーナリストたちにとって登竜門にもなり、今年、世界39か国4500点の応募があったと発表がありました。また、イベントは、福島の子どものための保養施設「沖縄・球美の里」の運営や甲状腺検診など、DAYSが行う活動への支援を呼び掛ける重要な機会にもなっています。

編集部は、企画出しから校了までの1か月の編集スケジュールや写真の選び方、写真使用料について、編集過程の実際の誌面を使いながら報告しました。編集部は2名体制で、仕事の見せ所は、ニュースをどのような切り口で、ビジュアルでどう見せるかにかかっています。

最後に広河現編集長は、「社会に影響力を持つためには今の部数では弱い。これから5万部、10万部にしていかなければならない」と出席者らに檄を飛ばした上で、「単に良い雑誌を作っていれば良いという考えは通用しない。DAYSは写真の雑誌ではなく、フォトジャーナリズムの雑誌。今の時代がどういう時代で、人々がどこに向かおうとしているのか。メディアが何を守らなければならないかを見極め、より力強く、時代の要請に応じて、より広く遠くに届くような誌面を期待しています」と話しました。

「次世代DAYS」締め切りまであと2か月。次回相談会の参加と、コンテストへの応募をお待ちしております!